

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	グループ療育のプレイルームと個別療育の相談室を完備し、他に面談などに活用できる個室も準備している	はい27名(100%)	今後、利用者数やクラス編成などの変化に応じて、その都度、検討していく
	2 職員の適切な配置	グループ療育は、常時2名以上のスタッフ、個別は個室にて、1対1で関わっている(スタッフは全員保育士、心理士、特別支援教育士、言語聴覚士など有資格者である)	はい27名(100%)	今後も現状維持を継続していく
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	プレイルーム、相談室ともにフラットで、水回りなども、こども用に配慮した構造をとっている	はい26名(96.3%) わからない1名(3.7%)	個々のニーズを可能な限り取り入れた環境整備を徹底していく
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	プレイルームは、二面採光で明るく、粗大運動も可能な広いスペースを確保し、個別は、1室に1家族で完全個室の状態できちんと取り組める環境を備えている	はい27名(100%)	今後も現状維持を継続していく
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	小児科医師に受診、心理士による発達検査を経由し、利用開始し、スタッフでのカンファレンスを開催し、全員で検討している		小児神経専門医、心理士、特別支援教育士、言語聴覚士、保育士など多職種連携のもと、より良いサービスの提供に努めている
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在、実施していない		今後の検討課題とする
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	当施設理事長である小児神経専門医による施設内での勉強会の開催、また自治体や各種団体主催の研修会、講演会へ可能な限り参加し、スタッフ間で情報を共有している		オンラインなども活用して、今後もスタッフ各自の自己研鑽の場を確保していく
	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	小児科医師、心理士によるアセスメントを行い、保護者と面談の後、個別支援計画を作成している	はい26名(96.3%) どちらともいえない1名(3.7%)	今後もさらに、こどもと保護者の課題やニーズの把握に努め、計画の作成を行っていく
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	児童発達支援では、基本、母子保育での集団から開始し、状況を判断して、母子分離、個別等へと移行する。放課後デイサービスは、個々の発達状況に適合した個別指導を基本としている		母子通園、小グループ、個別指導などの当施設の特徴を活かして計画を作成していく
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	長期目標、短期目標を設定し、総合的な支援や、具体的な支援内容について明確に記載している	はい27名(100%)	今後も現状維持を継続しつつ、支援内容の変化については、具体的かつ明確に記載していくことに努める

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画に沿った療育を基本としているが、利用者の発達状況や養育環境の変化を迅速に察知し、計画の見直しも視野に入れた対応をしている	はい27名(100%)	現状維持を基本としつつ、利用者の変化に迅速にかつ柔軟に対応していく
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	新入児については、小児科医師も含めたカンファレンスを全員で行っている。医師、心理士、特別支援教育士、保育士の多職種で連携し、立案している		今後も現状維持を継続していく
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	日曜日、祝祭日は休日としている。長期休暇は学校園開校日と同様に療育を実施している。長期休暇のみの利用も受け入れている		利用者の状況に応じ、臨機応変に対応可能な受け入れ体制を今後も維持していく(ただし、日曜、祝日は閉所している)
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	スタッフ間での意見交換や、外部で開催の研究会、講演会へも積極的に参加し、有益な情報確保に努めている	はい27名(100%)	現状維持を継続しつつ、新しい取り組みも導入していく
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	毎朝、クリニックで連絡事項を確認後、当日の健康状態も含めた児の様子を保護者から聴取し、事前に用意しているプログラムが的確か否かを判断の上、療育を開始している		感染症拡大防止の観点から、スタッフの健康管理にも留意し、現状維持を継続していく
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	療育終了後は、利用者個別の記録を各々記載する。スタッフ間で療育を振り返り、意見交換をし、現状と課題について検討している		今後も、現状と課題についての検討に加え、終了後、換気や消毒の徹底も行っている
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	療育終了後は、利用者個別の記録を各々記載する。スタッフ間で療育を振り返り、意見交換をし、現状と課題について検討している		今後も現状維持を継続していく
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	発達検査のデータをもとに、また、スタッフ間で情報、意見を出し合い、児童発達支援管理責任者を中心に計画の見直しを行っている		今後も現状維持を継続していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	相談支援専門員からの要請があった場合は、利用者の情報を提供している。担当者会議への参加の経験は無し	今後、要請があれば、それを受けて、可能な限り、参加していく	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	幼稚園、保育所、小学校などからのご希望があれば、随時、見学や懇談を受け入れている	今後も現状維持を継続していく	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	ご希望があれば、情報提供は可能であるが、現在まで、実施実績は無し	当該事業所からのご依頼があれば、保護者の方のご同意を得たうえで、情報提供に応じる(保護者の方のご意向を重視)	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	日常業務に支障を来さぬ範囲内で、外部機関主催の研修へ参加している	オンラインも活用し、スタッフそれぞれ自己研鑽に努める	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	実施実績無し	はい3名(11.1%)どちらともいえない3名(11.1%)いいえ14名(51.9%)わからない5名(18.5%)無回答2名(7.4%)	個別指導なので関係なしというコメントあり。今後の検討課題とする
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	実施実績無し		今後の検討課題とする

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に、重要事項説明書に沿って、説明している	はい27名(100%)	今後も現状維持を継続していく
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	放課後デイサービスは、個別指導で行っているため、必要な場合は適宜、保護者と当日の内容も含め説明している、グループ療育では、面談日を設定して、説明を行っている	はい26名(96.3%)わからない1名(3.7%)	今後も現状維持を継続していく
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	正式なプログラムに対応したペアレントトレーニングとしては、実施実績無いが、母子通園の利点を活かし、親子の関わりについても指導内容に組み入れている	はい23名(85.2%)どちらともいえない2名(7.4%)いいえ1名(3.7%)わからない1名(3.7%)	保護者の訴えもしっかりと受け止めつつ、家族や兄弟も含めた関わり方について、引き続き、支援していく
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	母子保育での利用者には状況確認を共有し、分離での利用者には、送迎時にその都度、連絡、報告を行っている	はい27名(100%)	はいの回答を100%頂いているが、これに驕ることなく、今後も保護者と共通理解ができるように努めていく
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者からの訴えや、悩みに共感しつつ、適宜、助言を行っている	はい26名(96.3%)どちらともいえない1名(3.7%)	こどもの発達支援に保護者と共通理解をもちつつ、療育に取り組んでいくように努める
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	特に行っていない	はい4名(14.8%)どちらともいえない5名(18.5%)いいえ5名(18.5%)わからない11名(40.7%)無回答2名(7.4%)	個別指導なので関係なしというコメントもあるが、放課後デイサービスは個別対応が基本となっているので、保護者同士の連携は困難である。今後の検討課題としていく
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	重要事項説明書に、苦情受付窓口を記載している。円滑かつ迅速に解決するために、スタッフ間で、検討する。必要であれば、外部機関と連携し、対処する	はい22名(81.5%)わからない4名(14.8%)無回答1名(3.7%)	とくに苦情がないというコメントもあるが、苦情があった場合は、迅速かつ適切に対応できるように、スタッフ全員総力をあげて解決していく
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	視覚支援を取り入れ、個々の特性を考慮した教具を利用している。保護者との情報伝達は、面談や連絡ノートを活用している	はい27名(100%)	今後も現状維持を継続していく
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	会報の発行はしていない、行事予定や活動内容については、担当者が保護者に直接お知らせしている	はい12名(44.4%)どちらともいえない5名(18.5%)いいえ4名(14.8%)わからない6名(22.2%)	いつも口頭で説明されているというコメントあり。母子通園が基本であるので、保護者との情報共有は毎回可能ではあるが、掲示などでも発信していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報に取扱いに関しては、パソコンのウィルス対策や、紙の媒体でのデータの管理も慎重に各自が責任をもって対応している	はい24名(88.9%)わからない3名(11.1%)	個人情報の取り扱いについては、今後もとくに慎重に行っていく
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	消防署の基準を満たした防火設備を完備し、感染症については、状況の変化に沿って法人理事長である小児科医の指示通りに対応している。現在、BCP作成中	はい18名(66.7%)どちらともいえない3名(11.1%)いいえ1名(3.7%)わからない3名(11.1%)無回答2名(7.4%)	今後もさらに、保護者への周知の徹底を強化していく
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的な火災を想定した避難訓練を実施している。今年度は津波避難訓練を実施した	はい8名(29.6%)どちらともいえない4名(14.8%)いいえ4名(14.8%)わからない8名(29.6%)無回答3名(11.1%)	個別指導なので関係ない、開始したばかりなのでわからないとのコメントあり。年に一度の訓練は今後も継続して実施していく
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	今年度、外部講師による職員研修を予定している		専門講師による研修も受け、日々の保護者や子ども達の様子を敏感に感じ取れるように努める
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	今年度、外部講師による職員研修を予定している		専門講師による研修も受け、今後、必要が生じた場合には、全スタッフで取り組んでいく
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	児童発達支援のグループでは、おやつを提供しているので、医師の指示どおりに対応している		今後も現状維持を継続していく
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの報告書を作成し、全スタッフで情報を共有できるようにしている		ヒヤリハットの事例が生じた場合には、報告書を作成し、原因を明らかにして、全スタッフで改善策を速やかに検討していく